



3

特別付録：地質観察ガイド

菅谷館跡・大蔵コース

約
5.2km

みどころ

河岸段丘

地形と遺跡

段丘の土地利用

インブリケーション

など

行程



A 菅谷公園の池(溜池)

すがやこうえん ためいけ

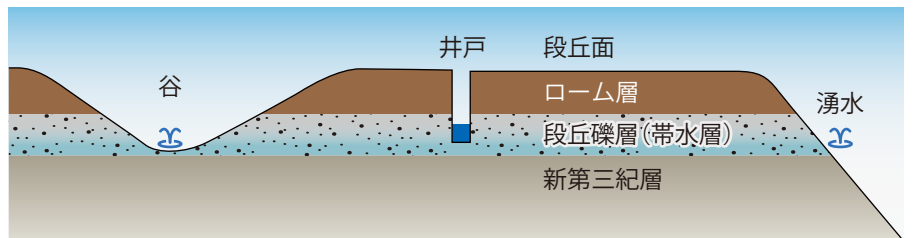
菅谷台地から流れ出す谷の始まりの所に、菅谷公園があります。その池は、もともと、菅谷台地の段丘礫層から湧き出る水を堰き止めて作った溜池でした。

比企地区には大きな川があまりないため、こういった谷を堰き止めた溜池を数多く作り、水田に利用していたのです。

みどころ: 段丘の土地利用



段丘面の下には、かつての川が運んだ段丘礫層があります。この礫層は粗い堆積物のため地下水をよく含む地層です。その下の新第三紀層は、逆に地下水を通しにくいので、段丘礫層の下面付近は地下水が豊富です。そのため、段丘礫層が顔を出している地点では、湧水(わき水)が出てくることよくあります。



段丘と地下水・湧水の関係

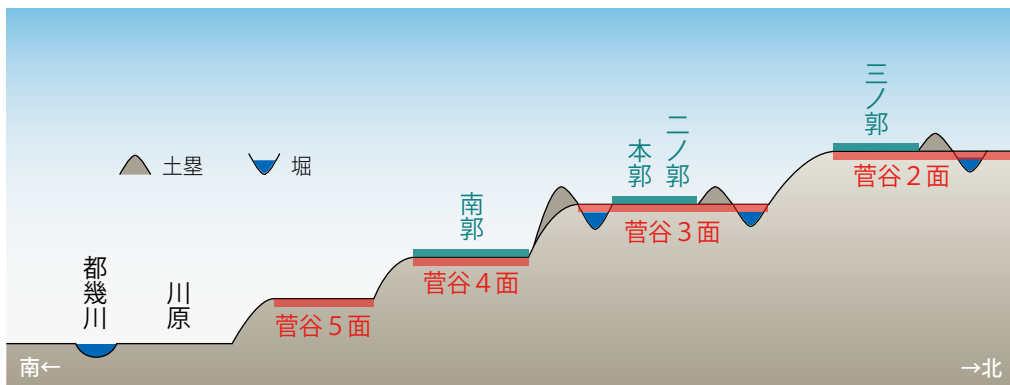
B 菅谷館跡

すがやかたあと

鎌倉時代の武将畠山重忠の居城(館)です。菅谷の段丘面を利用した館づくりが観察できます。

国指定史跡ですので、削ったり礫を採取したりせぬ様、ご注意ください。

みどころ: 河岸段丘 段丘の土地利用



菅谷館付近の土地断面図

段丘面上に堀をめぐらし、掘った土砂を土塁として積み上げて要塞化したものと思われます。土木技術が発達する前のため、階段状の地形を利用し、最小限の労力でこの居城(館)をつくったこととなります。

B1 史跡の博物館付近 [菅谷2面から菅谷3面へ変わる坂]

写真奥が三ノ郭(菅谷2面)、手前が二ノ郭(菅谷3面)です。この段差部分に、埼玉県立嵐山史跡の博物館が建てられています。

みどころ: 地形と遺跡



観測地点 B1 から北へ向かって撮影

B_e 菅谷館東の沢

菅谷台地の段丘礫層から湧き出し、流れてくる沢を菅谷館の「外堀」として利用しています。ここでも自然を巧みに利用していることが伺えます。



観測地点 B2 から南へ向かって撮影

B₃ 堀と土塁

段丘面を掘削して「堀」が作られ、その脇に「土塁」を作って要塞化しました。写真左の平らな場所が二ノ郭、堀、土塁があって、画面右の通路奥が本郭です。両郭とも菅谷3面を利用したものです。



北東 東 南東 南

B₄ 南郭(菅谷4面)

南郭は、本郭(菅谷3面)よりも1段低い菅谷4面に作られています。写真右側が本郭、中央部が南郭(菅谷4面)、左側が1段低い菅谷5面へと変わる段丘崖です。



観測地点 B4 から西へ向かって撮影

B₅ 菅谷4面の段丘礫層

南郭(菅谷4面)から川原へ降りる所に菅谷4面の段丘礫層が見られます。かつて都幾川が、この高さを流れた時に運んだ礫層です。

観測地点 B5 から東へ向かって撮影



段丘礫層の接近写真



B 菅谷 5 面

菅谷館の西側の「外堀」として利用されている沢が流れ込んでいます。そのため、ここ
の菅谷 5 面は湿地になっており、現在は「ホタルの里」として整備されています。



菅谷館跡西側の沢の出口



菅谷 5 面上の「ホタルの里」

C 都幾川の川原

都幾川の川原では、現在の礫層が観察できます。礫の種類を調べると、上流の地層や岩石の様子が伺えます。またよく見ると、礫が上流側に向かって傾斜した（下流側に倒れたような）配列がみられます。



これをインブリケーション（覆瓦構造）ふくがこうぞうといい、写真では礫が全体的に \\ 〳〵 のように並んでいる状況を確認できます。

みどころ： インブリケーション



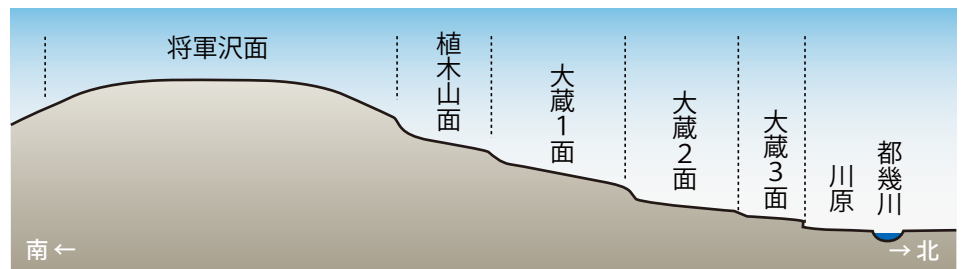
拡大写真

D 大蔵面

都幾川の南側にも河岸段丘がみられます。

菅谷館側の段丘面に比べると、全体にゆるやかなため段丘面が広く発達していることがわかります。

みどころ： 段丘の土地利用

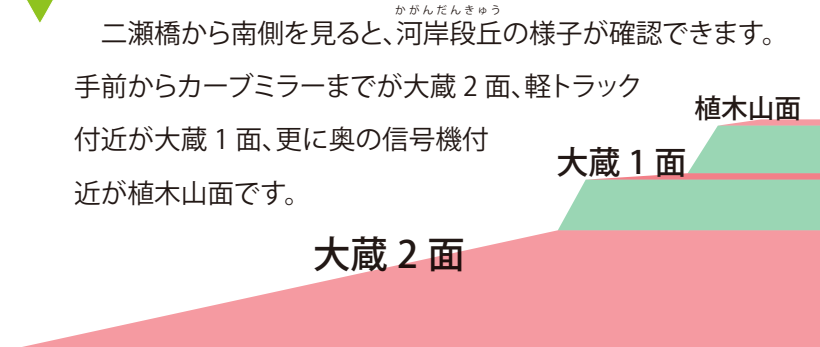


將軍沢～都幾川 断面図

D 二瀬橋

二瀬橋から南側を見ると、河岸段丘の様子が確認できます。手前からカーブミラーまでが大蔵 2 面、軽トラック付近が大蔵 1 面、更に奥の信号機付近が植木山面です。

みどころ： 河岸段丘



二瀬橋から南側を見る（望遠撮影）



E だんきゅう 段丘と低地の土地利用と行司免遺跡の井戸跡

みどころ: **地形と遺跡** **段丘の土地利用**

段丘面(大蔵 1 面)などは、水はけがよいため畑に、大蔵 3 面などの低地は水を引き込み易いため水田に利用されています。

中世の人々も同様に、水はけの良い大蔵 1 面に集落(行司免遺跡)を作り、井戸を掘って地中の段丘礫層れきそうを流れる地下水を利用していました。

現在、畑の中央に発掘された井戸跡が残されています。

なお、井戸跡は私有地なので無断立ち入りせぬよう、お気をつけください。



左側:低地(大蔵3面)は水田 右側:1段高い段丘面(大蔵2面)は畑



中世の井戸遺跡遠景(冬場)



井戸遺跡に水



井戸遺跡 夏場の様子

F 学校橋から見える風景



学校橋から西を望むと、外秩父の山々や、嵐山溪谷らんざんけいこく周辺の山々が見えます。遠くに見える堂平山は中生代・古生代の地層(秩父帯)からできた山で、笠山かさやまは三波川帯の変成岩類からなる山です。手前に見える嵐山町の塩山、大平山も三波川帯の変成岩類からなる山です。